

ダリアにおけるキクわい化ウイルス (CSVd) による病徴の解明

～ CSVd はダリアの生産上問題となる病原体 ～

ダリアではキクわい化ウイルス (CSVd) の感染により草丈・植物重の減少、葉及び花の小型化といったわい化症状が生じます。

1. 背景と目的

ウイルスは 400 塩基程度の環状 1 本鎖 RNA からなる病原体です。その 1 種であるキクわい化ウイルス (chrysanthemum stunt viroid; CSVd) はキクにわい化症状を引き起こすことから、キクでは生産上重要な病原体とされています。

本県では、ダリアへの CSVd 感染が確認されていましたが、ダリアに対する病原性は明らかにされていませんでした。そのため、CSVd を防除対象とすべきか明確な根拠がない状態であり、感染によるダリアの生育への影響を明らかにすることが求められていました。そこで、ダリアに CSVd を感染させ、病徴の詳細を明らかにしました。

2. 研究成果の概要

‘ポートライトペアビューティー’、‘真心’のダリア 2 品種に CSVd を接種し、感染親株を作りました。ここから挿し芽を行い、切り花生産を想定した栽培での CSVd 感染株と非感染株の生育を比較しました。

‘ポートライトペアビューティー’では植物長、植物重がそれぞれ 27%、24%減少し、葉身長は 12%減少しました (図 1)。花径、花重はそれぞれ 8%、10%減少しました。

‘真心’では植物長、植物重がそれぞれ 24%、50%減少し、葉身長は 33%減少しました。花径、花重はそれぞれ 19%、45%減少しました。また、花弁数の減少による露心花 (図 2) が 27%発生しました。

これらの結果から CSVd 感染はダリアの生育を抑制し、植物長・植物重の減少、葉及び花の

小型化といったわい化症状を引き起こすことが明らかになりました。また、病徴の程度に品種間差があることも確認されました。植物長の減少率が 24～27%であり、露心花の発生が増加したことから、CSVd はダリアの生産上問題となる病原体であり、防除対策が必要と結論づけました。



図 1 CSVd 感染によるダリアのわい化症状
品種：ポートライトペアビューティー



図 2 CSVd 感染によるダリアの露心花
品種：真心

3. 実用化に向けた対応

CSVd の感染は全国のダリア生産ほ場でも確認されており、今後の被害の拡大が懸念されます。明らかとなった病徴に関する情報を周知するとともに CSVd に感染していない親株の選抜、切り花生産ほ場での感染株の抜き取りによる伝染源の除去、ハサミのバーナーでの熱消毒による感染の拡大防止といった対策を推進していきます。

(環境科 浅野 峻介)